

## 平成26年度 第1回鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 平成26年6月2日(月) 10:00～11:30
- 場 所 鳥取環境大学 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 高橋一委員、三野徹委員、小林槇太郎委員、岡田昭明委員、岡崎誠委員、今井正和人委員、千葉雄二委員、  
角紀代恵委員、田中仁成委員、常田禮孝委員、中島廣光委員、山本仁志委員  
[12名/15名]
- 欠席者 富岡庄一委員、田中勝委員、木下法広委員

### 【議事】

- 1 前回議事要旨の確認  
原案のとおり了承。

- 2 審議事項

- (1) 平成27年度入試について

- ①入試概要(学部)について

- ②入試概要(大学院)について

資料に基づき平成27年度(学部・大学院)入試について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- (2) 鳥取環境大学名誉学長称号授与規程の制定について

資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- (3) 名誉学長の称号の授与について

資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- (4) 学長選考会議委員の選任について(報告事項終了後)

学長退席後、三野委員に議長交代し、審議の結果、次回再度審議することとなった。

委員によるおもな意見等は次のとおり(○質問・意見、→:回答・説明 以下同様。)

○これまでの選考方法はどうなのか。

→前回は、当時の高橋副学長が学長候補となったことに伴い、生じた欠員について投票により選任している。最初の委員は、学長が発言し話し合いで選任した。

学長の任期中は、特に役割はなく、審議の対象となるのは解任の場合のみである。

○いずれにしても、いきなりこの場で決めると言われても無理がある。次回までに、候補者や選考方法について、事前に調整した上で、諮ってもらえるとありがたい。

- 3 報告事項

- (1) 近況報告

事務局から資料に基づき、在籍者状況、就職活動状況、入試実施状況等について報告があ

った。

○入試実施状況に関連して、大学としてのターゲットは地元の学生なのか、県外の学生なのか。  
→現状でいえば、受け身となっており志願者に依存している。環境学部という強みを生かして情報発信できる内部体制を強化していきたい。

○県外から入学し、県内に就職している実績はあるのか。

→以前は就職者の1割程度あった時期もあるが、昨年度は3名。

○卒業生の県外への流出を止めることも大切だが、県内の高校での評価や県民レベルでの環境大学への関心を高めることを意識してほしい。

○留学生への指導体制はどうなっているか。

→ほとんどできていない。留学生担当教員の配置など組織的な対応が課題。

○今回入学者がなかったようだが、3年次編入のターゲットはあるのか。

→3年次編入が始まった当初は、県内の高専や鳥取短期大学の学生をターゲットにしていたこともある。

→また、環境大学の学生の動向として、公立化に伴って1，2年生の動向が変わってきた。3年次により良い大学へ転学したいという学生が増えてきているようだ。流動化を進めていくことも必要と考えているが、学生の詳しい動向が掴みきれず、大学としてはまだ詳しい分析ができていない。

○大学院が定員割れとなっていることについて、認証評価機関からの指摘はないのか。

→確かに大学基準協会から問題点としていて指摘を受けており、これから議論していくことは必要と考えている。

(2) 平成26年度教学体制及び新任教員の紹介

事務局から資料に基づき、平成26年度教学体制及び新任教員について報告があった。

(3) 平成26年度特別研究費助成（学長裁量特別事業）について

事務局から資料に基づき、平成26年度特別研究費助成（学長裁量特別事業）について報告があった。

(4) 大学案内のリニューアルについて

事務局から資料に基づき、大学案内のリニューアルについて報告があった。

(5) 古澤前学長の退任記念式について

事務局から資料に基づき、古澤前学長の退任記念式について報告があった。